
〇〇の〇〇が世界を救う

長まさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

〇〇の〇〇が世界を救う

【Nコード】

N7289Z

【作者名】

長まさ

【あらすじ】

遊戯王が好きなごく普通の高校2年生、石嶺山吾。

そんな彼が、突然世界を救う為にGXの世界に飛ばされた。

これは、そんな彼が大好きなコ〇ンの最終回を観る為に、無事元の世界へ帰還するまでを綴った物語である。

注：あくまで遊戯王の小説です（笑）

第1話（前書き）

タイトルの○には、テーマデッキの名前が入りますが、デュエルをするまでは伏せます。

第1話

「……嶺山……君？ 石……吾君？」

誰かが俺を呼んでいる、知らない声だ……誰だ、人の昼寝の邪魔をする奴は？

「ん？ ……ってうわっ！！」

聞き慣れない声の主を確認しようと俺が目を開けると、顔の目の前数センチの近さに綺麗な女性が居た。

「良かったー、やっと起きてくれたわね？ 石嶺山吾君」

何だこの人？

確かに、俺の名前は石嶺山いしみねさん吾だ。

しかし、何で俺の名を知っている？

そしてここは何処だ？

よく見たら一面真っ白だし、身体が少し浮いている。

「アンタ、一体何者だ……？」

俺は率直な疑問を口にする。

「私？ 私は……神よ」

「僕は新世界の神になる……の、神か？ (笑)」

一回言ってみたかったが、顔見知りの前じゃ痛くて言えなかった、伝説の名台詞を言ってみる(笑)

「誰が○ラよ!? 誰が月と書いてラ○トと読むのよ!?!」

「おおー、綺麗なノリツツコミ(笑)」

スゲーー、百点満点な答えが来た(笑)

こりゃ良い(笑)

「私で遊ばないで、真剣なんだから!! 貴方の世界の危機なのよ?」

「いや、いきなり出て来て、神よ言われて信じれると思うか? まあ、新世界の神(笑) なのはこの際認めるから順を追って話してくれるか? まず、ここは何処なんだ?」

「何だか、凄く不愉快な言われ様ですが……時間が無いので簡潔に話します、ここは転生の部屋よ」

「……転生つて、よく小説なんかに有るあの転生か?」

「ええ、貴方は今から別の世界に転生するの」

「ハアー!? じゃあ何か、俺は死んだのか? まだ17だぞ?

コ○ンみたいに外車も運転してないし、○姉ちゃんみたいな可愛い彼女だつて居ないし、第一、大好きなコ○ンの最終回だつて見てないんだぞ!? さては、アンタ間違えて俺の事殺したろ?」

二次小説でよく見る転生モノ、読む分には面白いが、実際になるとパニクる。しかし、我ながら後悔がコ○ン関係ばっかだ(笑)

つてか、いつ死んだんだ?

「ちょ、ちょっと落ち着いてよ?

まず、貴方は死んでないわ。私が貴方の力を借りたくてここへ呼んだの」

「俺の力を借りたい?」

「そうよ……実はね?」

私と対をなす立場に有る死神が、貴方の世界の人間を一人、遊戯王GXの世界に転生させてしまったの……死神の事だから、間違いなく悪い入れ知恵をしてるわ。

このままその転生者を自由にしていたら、貴方の世界とGXの世界、2つの世界がメチャクチャになってしまう。だから貴方を呼んだのよ」

死神ってマジで居たのか……そんなもって、死神と対をなすって事は、この人は女神様か何かか？

「……つまり、その転生者は俺の知り合いか？」

「理解が早くて助かるわ……黒羽光行、貴方の高校のクラスメイトよね？」

「く、黒羽光行！？　そういえば、何日か前に行方不明になったって……マジかよ」

俺はその場に座り込む。それでも身体は浮いているが……とにかく、転生者がアイツなのは、それ程マズい事態なのだ。

「事の重大さは伝わったかしら？　貴方には、彼を止めて欲しいの。転生させたのが死神だし、このままじゃ何し出すか解らないわ……」

痛い程伝わりました（笑）

「それ、何か俺でなきゃいけない理由とか有るの？」

「大有りよ？　貴方、学校で唯一彼に勝てるんでしょ？」

なるほど、その言葉を聞いて一気に納得した。

奴、黒羽光行は俺の高校では名の通ったデュエリストだった。

父親がデカいカードゲーム会社を、母親がカードデザイナーをし

ていて、常に最新のカードが手に入る事も有るが、何よりプレイングタクティクスが尋常じゃないのだ。

「勝てるって……よく言つて互角だぞ？」

正直よく言い過ぎだ、俺と奴の戦歴は45勝55敗。10個の負け越し、互角ではない。

「他の生徒は誰一人勝てないんだから立派じゃない。とにかく、彼を止めて？」

「アンタの頼みは解つたから、俺にも質問させてくれ……さっき、アンタは俺は死んでないと言つたが、じゃあ俺が奴を止める事が出来れば、俺は元の世界に戻れるのか？」

「ええ、勿論よ？ 約束するわ」

「GXの世界に居た分、元の世界でも時間が進んで、例えば三年居たとして戻つたら成人になるとか無しだぞ？」

「……善処するわ」

何だその妙な間は……まあ、良い。アニメのGXは好きだ。

ヒロインは5・dsの圧勝だけだな？

アキ姉ちゃん最高、木下あ○み最高（笑）

最も、歴代最強ヒロインは杏子姉さんだが（笑）

「解つた、奴を止めれば良いんだな？ だが、具体的にどうすれば良い？」

「多少の変化は目を瞑るから、なるべくアニメの流れのまま、主人公達と卒業して欲しいの」

「そんなんで良いのか？……いや、意外と難しいか？」

「勿論、私も精一杯サポートはするわよ？ 貴方が望むなら、チ

ートドローもオリカも可能よ？」

「んなもん要らん、精々死神から命を守れ位だ。カードは俺が持つだけで充分……と言いたいが、強欲な壺と天使の施し、そして俺のメインデッキ関係の原作カードは貰おうか？」

前者2枚は元の世界じゃ禁止カード、ストックは無いので欲しい。メインデッキ関係のカードは最も欲しい、有ると無いとじゃ大違いだ。

「解ったわ、貴方のカードコレクションに追加しておくから確認しておいて？」

死神の件は大丈夫、任せて。

それじゃ、準備が整ったからそろそろ行ってくれるかしら？」

「解った、ちなみにアニメの何処から始まる？」

「一話の前、学科試験からよ？」

「ち、ちよつと待て、世界を救わせようって人間に、試験受けさせるか？」

「転生の時点で普通じゃないでしょ？ つべこべ言わずにさっさと行きなさいっ！！」

「何だこれ！？ うわっ！！」

新世界の神（笑）がそう言うと、謎の球体に包み込まれ、俺は再び気を失った。

「新世界の神（笑）言うな！！」

続く……。

第1話（後書き）

こんな感じで第1話です。

話の中でも少し触れましたが、GXは話は面白いのですが、ヒロインがイマイチ：何故十代にアピールしなかった、明日香よ（笑）

それに、ヒロイン以外の女性キャラも、初代の孔雀舞様、5・d sのシェリーさんポジションが居なかった：同じ事二回言いますが、話は面白かっただけに勿体なかったなと（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7289z/>

〇〇の〇〇が世界を救う

2011年12月24日04時45分発行